

# 日米安保50周年 日本外交を問う

Opinion

オピニオン

## 世界衆論

「しゅろん」(衆論)

多くの人の議論意見(広辞苑)・全国の智力を出て衆論を成し、その衆論の集する所にて政府を改め、遂に封建の制度をも廃したる(福沢諭吉「文明論之概略」)

### 久保 文明さん (東京大教授) の問題提起



くほ・ふみあき アメリカ政治、著書に「ニューディールとアメリカ民主主義」「アメリカ政治(共著)など。53歳。

日米安全保障条約が締結されて、来年12月で50周年を迎える。この条約が根幹となってきた日米関係が、大きく揺らいでいる。鳩山由紀夫政権には「日米間の緊密な関係」「同盟の深化」といった肯定的なメッセージも見られるが、「あまりにアメリカに依存し過ぎていた」と関係を批判的に語るなど、米国内に不安を抱かせかねない発言も少なくない。この現状を、私は危惧している。

### 鳩山政権の安保政策示せ／互恵の機会失うな

問題の根本は、鳩山政権の安全保障政策の骨格がいし基本認識が明確に表明されていないことにある、と私は考える。日本の安全にとって脅威は何であるか。北朝鮮の核・ミサイル開発、中国の軍力強化をどのように評価しているのか。有事の際、どの程度日本独自で対応でき、どの程度米国の協力を必要と認識しているのか。米軍普天間飛行場の移設問題、アフガニスタン支援、日米地位協定、思いやり予算など、オバマ政権に多くの要求が提示されている。しかし、安全保障でも、個別の争点も、米国の一方的に譲歩するという関係は成り立っていない。

### 岡田 克也さん

外務大臣



おかだ・かつや 90年衆議院議員、著書に「自民党を離れて、98年から民主主義、同党代表などを務め今年9月から現職。56歳。

藤田 野党、民主主義が目指していた外交と政権としての外交。外相自ら「感じているか。岡田 民主主義政権誕生から2カ月余りたが、私は非常に順調に進んでいると思ふ。日米関係は、日中、日韓、東南アジア諸国連合(ASEAN)など、今までの状況が生まれていない。自民党政権では政権によって対応が変わった韓国や中国からの期待感も高まっている。日米関係も首脳会議で互いに信頼関係を深め、大きな視野で話した。50年一回もいえる政権交代であり、我々も真摯には初めて政権の座について。摩擦というか、従来の部分もある。お互いに理解を深め、日米関係をぜひ作ってきたい。米国では共和愛党の人が言わない、彼らはオバマ政権に対しては厳しい。自民党政権と一緒にやってきた人だから日本の民主主義政権に対しては、厳しいのはある意味当然だ。

### 五百旗頭 真さん

防衛大校長



いおきべ・まこと 日本政治、外交史、日米関係、著書に「米国の日本占領政策」「歴史としての現代日本」など。65歳。

藤田 日米安保について、1年かけて新しい協議を進める。岡田 僕はあまり「日米安保体制」という言葉を使わない。「日米同盟」だ。2国間の問題、アジア、太平洋の問題、グローバルな問題がある。この問題が解決されるまで、日米が協力すべきことは多い。30年先、50年先まで持続可能な同盟にしなければならぬ。

### 藤田 直央

本紙政治グループ記者



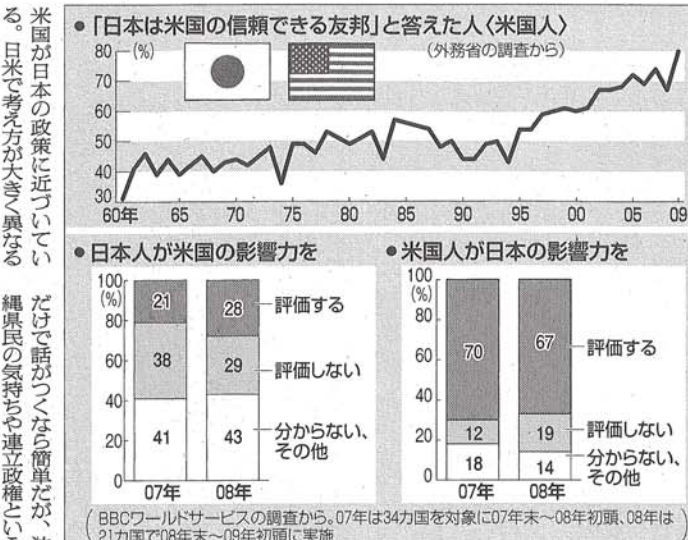
ふじた・なおたか 94年入社、米ハーバード大客員研究員、官政、民主主義を専攻、現在与野党クラブサブキャップ。37歳。

藤田 日米安保について、1年かけて新しい協議を進める。岡田 僕はあまり「日米安保体制」という言葉を使わない。「日米同盟」だ。2国間の問題、アジア、太平洋の問題、グローバルな問題がある。この問題が解決されるまで、日米が協力すべきことは多い。30年先、50年先まで持続可能な同盟にしなければならぬ。

### 日米同盟 新政権でも安定させよ

#### 沖縄の声・連立維持 無視できぬ

兵隊の富国で復興し、軍事対決よりも外交協力を基調とした。米国の力を日本の安全に活用した日米同盟があったので、戦軍備でやっていった。米国のGDP(国内総生産)の4%以上を軍事費に投入し、今や平和な欧州も3%の軍事費を費やしている。日本は0.9%で済んでいる。これを資産とすれば、戦後の日本は経済成長したのと同じで、安全保障は傷つけぬ配慮をすべきだ。民主主義政権は基本的にリベラルな志向性を持っていて、グローバルな協力を大事にして、地球規模への対応やアジア周辺国との友好関係を重視する路線を取っていく。戦後の伝統のつとめた透明な生き方と、いえる。たまたま可能なならば、まさに岡田さんが大事と言った日米同盟を活用しているからだ。



東京財団レポート  
日米安保条約が改定された1960年からほぼ半世紀。安定した同盟関係のもと米国民の対日観は向上し、2009年には「日本は信頼できる友邦」とみる人が80%に。政府の調査によると日本人は7割以上が同条約支持だが、昨今の米国内への視線は複雑。米国の国際的影響力を「評価する」は07年、08年と3割に届かず、「分からない、その他」が多数。ブッシュ政権の単独主義の影響か。国際協調に転換したオバマ外交で改善するだろうか。(細野豊樹・共立女子大准教授)

### 藤田の総括

初の本格的な政権交代が起きた日本は、外交の基礎である日米同盟で「継続性」の聖域にどこまで踏み込めるか。チェンジを掲げて誕生したオバマ政権の協力を期待する一方、鳩山内閣は日本外交の可能性を挑んでいく。だが、日本外務省は11月の米大統領選に備えて、日米同盟の再構築に向けた議論を加速させている。日米同盟の再構築は、民衆の期待をどう捉えるかが鍵となる。

### 「継続性」への挑戦、再考を

民衆の期待をどう捉えるかが鍵となる。日米同盟の再構築は、民衆の期待をどう捉えるかが鍵となる。日米同盟の再構築は、民衆の期待をどう捉えるかが鍵となる。日米同盟の再構築は、民衆の期待をどう捉えるかが鍵となる。

### 日米根幹にアジアとの関係強めよ

#### 二者択一は冷戦期の貧しい発想だ

想は非常に貧しい発想だ。我が「アジアが大事だ」ということ。米国内には「冷戦期の貧しい発想だ」という声も少なくない。冷戦期の二者択一は、冷戦期の貧しい発想だ。冷戦期の二者択一は、冷戦期の貧しい発想だ。